

長崎港元船地区整備構想とは

「長崎港元船地区整備構想」は、老朽化や交通混雑への対応、安定的かつ利便性の高い船舶の利用などの課題解決を図る**港湾機能の再編**に併せ、周辺地区と調和したにぎわいのある**“みなとまちづくり”**など「**長崎の海の玄関口**」としての**“ありたい姿”**を**“構想”**として整理したものである。

本構想は、**事業の実施が確定しているものではないが**、本構想に基づき、今後、事業実施等の検討を行っていく。



2022年9月に開業した九州新幹線西九州ルートをはじめ、長崎駅周辺では、新たな商業施設・ホテルの開業により、“**陸の玄関口**”が強化されている。

また、**新たな賑わい**として、北部（幸町周辺）ではサッカースタジアムや、バスケットボールのホームアリーナなどを核とした商業開発が進められ、南部（松が枝周辺）では、クルーズ船によるインバウンドを核とした地域活性化となる、クルーズ船2バース化による**“国際観光船の玄関口”**整備が進められている。

まさに、長崎のみなとまちは、100年に一度と呼ばれる**変革期**を迎えており、多くの観光客の来訪や県民の利用が想定されている中、「長崎港元船地区整備構想」による元船地区が、ベイエリアや出島・県庁舎跡地、まちなかと連携し、

“集い・交わり・繋がる”みなとまちの更なる発展

へと向かっていく。

元船地区エリアゾーニング・整備コンセプト



- 国内ターミナル機能を西側に機能集約することにより利便性を向上させ、東側に観光・交流機能を配置し、ベイエリアやまちなか方面と連携を図ることで、更なるにぎわいの創出を目指す。

<コンセプト>

長崎元船OASIS

～海と船の楽しさを感じる、島と食と人との交流空間～

【整備のポイント】

- 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上
- 臨海部を活かした観光・交流機能等によるにぎわいの創出
- 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上
- 港、海が感じられる景観による魅力の向上
- 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

全体配置計画



【Aゾーン】

- ◆ 北西部に新たに岸壁と可動橋を配置し、定期貨物フェリーをシフトすることで、国内ターミナル機能を西側に集約。（定期旅客フェリーも利用可能としリダンダンシー確保）
- ◆ 定期旅客・貨物フェリーに機能集約した上屋を新たに配置し、上屋の屋上には、多目的機能（にぎわい施設や展望、緑地・広場機能など）の導入を目指す。

【Bゾーン】

- ◆ 長崎駅から長崎港ターミナルまでの歩行者回遊性を向上するための設備（スロープやエレベーター、エスカレーターなど）を配置。
- ◆ 軍艦島クルーズなどの観光クルーズ船の発着機能を一部集約し、にぎわい施設周辺には、待合空間を配置。

【Cゾーン】

- ◆ 定期旅客フェリーの車両停車場を必要台数分、配置。
- ◆ ターミナルや観光クルーズ、広場利用者等にとって必要台数を確保した駐車場を新たに配置し、必要に応じ、にぎわい施設との複合化や併設化を想定。

【Dゾーン】

- ◆ 長崎水辺の森公園や出島ワーフ、県庁舎跡地やまちなかとの連続性を考慮した広場空間を配置。
- ◆ 広場は、長崎くunchiの御旅所やイベント等で活用できる空間や、ターミナル利用者も含めた、憩い空間を配置。

【全体】

- ◆ 各施設の連絡通路の配置や施設の合築等により、2階レベル以上での地区内歩行者の移動円滑化を図る。
- ◆ 北側道路拡幅や交差点改良により、車両交通の円滑性を高める。
- ◆ 三角広場は、出島ワーフと長崎水辺の森公園をつなぐイベント活用等が可能なオープンスペースとして活用。
- ◆ 既存岸壁は、大型ヨットや、やかた船等の多目的船の寄港による活用を促進。
- ◆ 各施設のライトアップや岸壁照明等により、夜間景観に配慮。
- ◆ 上屋上層部や広場等には海が感じられる展望空間を配置。

元船地区全体イメージ



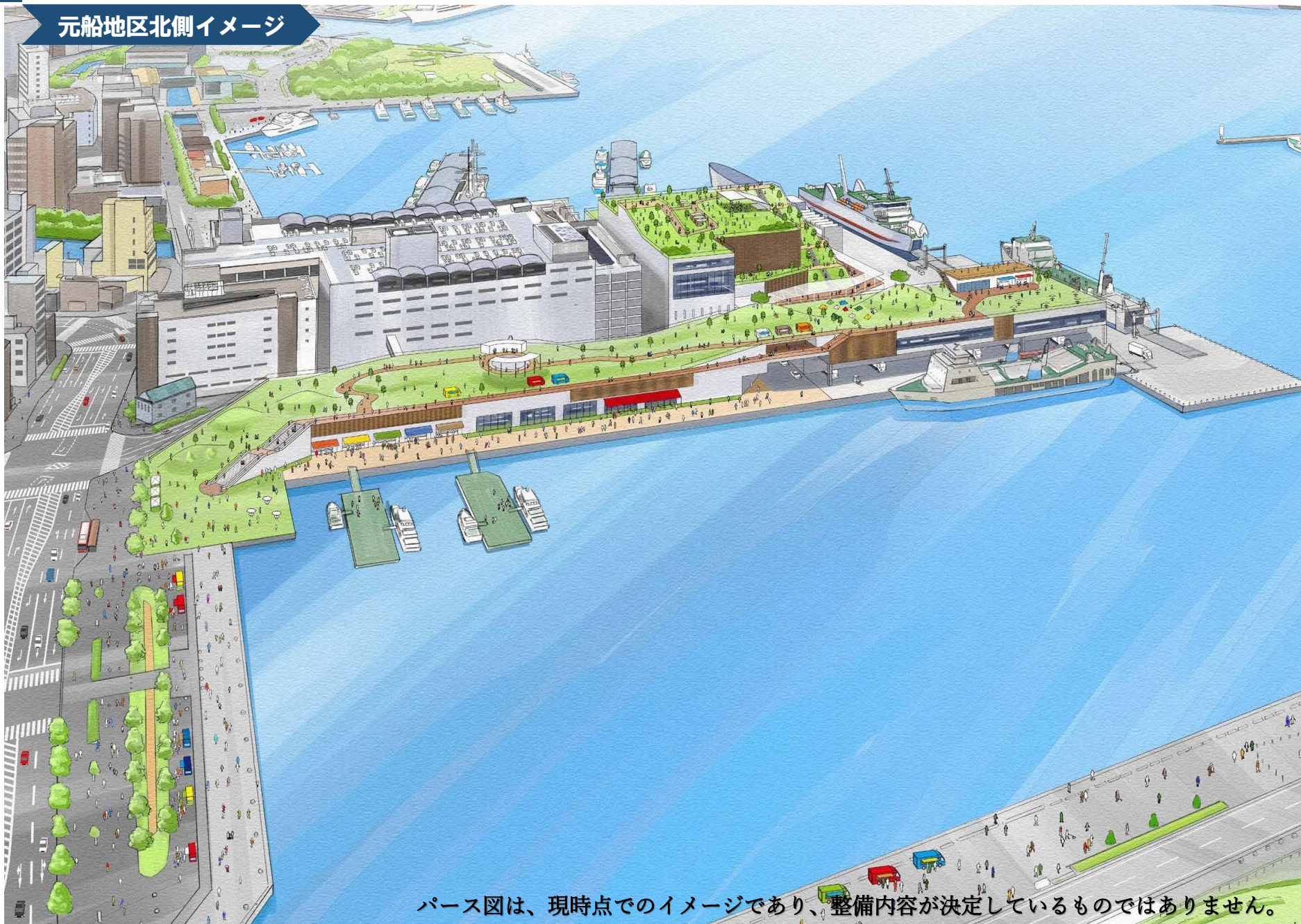
パース図は、現時点でのイメージであり、整備内容が決定しているものではありません。

元船地区南側イメージ



パース図は、現時点でのイメージであり、整備内容が決定しているものではありません。

元船地区北側イメージ



パース図は、現時点でのイメージであり、整備内容が決定しているものではありません。

国内ターミナル機能イメージ

- ▶ 定期フェリー等が安全に停泊できる岸壁や、旅客が円滑に乗降可能となるターミナル、新たな駐車場や道路など、海陸の交通結節空間など、港湾機能を再編。
- ▶ 空間形成として、港・海が感じられる景観形成に配慮し、周辺デザインに溶け込んだ施設や緑化空間を配置し、広々とした空間を確保。



観光・交流機能イメージ

- ▶ 県民の日常的な利用やクルーズ船によるインバウンドも含めた観光客など、多くの人々が集い、長崎の食や、海や港への景観などを楽しむ臨海部ならではの日常的空間を形成。
- ▶ 長崎くんちやイベントによる非日常的なにぎわい空間として、みなとまち長崎のポテンシャルを最大限に活かした交流空間を形成。

＜具体的イメージ＞

- 長崎の農水産物を飲食や販売ができる空間や、海との関連性を活かした体験型施設やホテル等。それは、団体客も利用可能で、昼間だけでなく、早朝や深夜等の利用可能といった機能性を持つ。
- カフェやキッチンカーが並び、歩いて楽しくなる空間の形成や眺望も楽しみながら休憩できるような緑化空間や展望空間を確保。

【プラタナス広場～元船地区北側周辺】

【おくんち広場周辺】



【にぎわい施設の内部】



各拠点のイメージ

【定期フェリー周辺】

【ターミナル駐車場周辺】

【上屋周辺】

